

IVR INTERVENTIONAL RADIOLOGY : インターベンショナルラジオロジー



榎殿順記念病院 院長
日本IVR学会専門医 放射線科 内藤 晃 (Naito Akira)

IVR (アイ・ブイ・アール) をご存じでしょうか。
さまざまな医療場面で活躍の場を広げている治療法で、正確には「Interventional Radiology : インターベンショナルラジオロジー」、日本語では「画像下治療」と訳し、レントゲン、CT、超音波、血管造影装置など放射線診断装置を用いて行う検査・治療のことです。

※穿刺(せんし)針や※カテーテルを用いて、主に局所麻酔下に行い、外科的手術の様にお腹や胸を切らずに体の奥にある臓器や血管の治療を行います。

IVRには血管系の手技のみならず、非血管系(体表から病変部に対し専用の針やカテーテルを直接進め、病変の治療を行なう)の手技も含まれます。



※穿刺針・・・血液や体液、細胞などの採取のために、体外から血管、体腔内、内臓に刺す針。
※カテーテル・・・体液の排出、薬液や造影剤などの注入点滴に用いる柔らかい管。

当院で行われている対象疾患に対するIVR治療法

血管系IVR治療

- 肝細胞がんに対する経カテーテル治療
- 咯血、消化管出血、腫瘍出血などに対する経カテーテル的止血術
- 動脈瘤、動静脈奇形に対する経カテーテル治療
- 子宮筋腫に対する動脈塞栓術
- 腎動脈、下肢動脈狭窄に対する血管拡張術(バルーン拡張術、ステント留置術)
- 抗悪性腫瘍剤動脈内注入用埋込型カテーテル留置術
- CVカテーテル埋込術
- 運動器カテーテル治療

非血管系IVR治療

- 経皮的針生検(肺、乳房、肝、腎、骨)
- 悪性腫瘍ラジオ波焼灼術(頸部、肺、乳房、肝、腎、骨)
- 経皮的胆管ドレナージ術
- 胆道ステント留置術
- 経皮的膿瘍ドレナージ術
- 食道狭窄拡張術
- 上下部消化管ステント留置術
- 気管・気管支ステント留置術
- 経皮的腎(腎盂)瘻造設術
- 圧迫骨折/骨転移に対する経皮的椎体形成術(骨セメント)
- 神経根ブロック